



## ツキノワグマによる人身事故防止総合対策事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之								
事業主体	県・市町等				事務区分	■ 自治事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	R3 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	- 年度							
事業実施方法	直営、補助金																		
補助率	1/3または1/2																		
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 鳥獣保護管理事業計画 福井県第一種特定鳥獣保護計画(ツキノワグマ) ]												
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]													
山際集落の過疎化や高齢化、生活様式の変化に伴う里山での人間活動の低下により、人里に近い山林が藪化し、ツキノワグマが生息しやすい環境が形成されている。そのような中、山の実りが不作の年には、ツキノワグマが餌を求めて人里に出没しやすい状況となっている。						R2: 県内のクマ出没件数 1,223件		人身被害状況 12件(12人)		※山の実り不作年									
						R3: 県内のクマ出没件数 403件		人身被害状況 2件(2人)											
						R4: 県内のクマ出没件数 314件		人身被害状況 0件(0人)											
[事業目的]																			
近年過疎化や高齢化により里山が荒廃し、里山に定着するツキノワグマが増加することにより、人の生活とクマの生息地が近くなりつつある。クマの適切な管理と人身被害防止を図るため、狩猟者育成、誘引物除去等の総合的な対策を行う。																			
[事業内容]																			
○ツキノワグマ対策指導者の派遣 市町職員や地域住民に対し、ツキノワグマの人身事故防止対策(柿もぎや緩衝帯整備、捕獲)に必要な情報の助言等を行う者を派遣する。 ・集落内へのツキノワグマの出没時に、現地に赴き、ツキノワグマの出没要因やその除去等の対策について助言する。 ・ツキノワグマによる人身事故が発生した時に、現地に赴きその発生要因を明らかにするとともに、再発防止に向けた助言を行う。 ・平素から、誘引物となる樹木の伐採など、クマの出没に強い地域づくりへの助言を行う。																			
○ <u>④</u> 誘引物除去対策補助金 人の生活圏にある管理されずに放置されたままの果樹(柿や栗)等は、ツキノワグマを引き寄せ人身事故の原因となるため、ツキノワグマを誘引する可能性のある樹木等およびそれらを含むヤブの伐採に係る経費を補助する。(事業費の1/3以内または1/2以内、上限50千円または100千円)																			
[受益者] 県民						[想定される受益者数]													
前事業の有無・実績	■ 無 □ 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	■ 無 □ 有 事業名 (役割分担)												
市町との連携状況	毎年、ツキノワグマの行動が活発になり始める春と、冬眠前の行動に注意が必要になる秋に、市町職員、県関係機関、県猟友会等の関係者と「ツキノワグマ出没対策連絡会」を開催し、ツキノワグマの出没傾向等の情報共有と連携強化を図っている。					他県の状況	○富山県 9,000千円 生息調査 2,000千円 堅果類豊凶調査 2,000千円 市町村への補助金(パトロール、銃購入) 5,000千円 ○石川県 5,000千円 県民向けのフォーラム開催 400千円 市町・捕獲隊向け対策マニュアル作成 4,400千円 事務費 200千円												

## ツキノワグマによる人身事故防止総合対策事業

区分	拡充	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之		
事業主体	県・市町等				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務  <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業 区分  <input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業 開始 年度	R3 年度 経過年数 4 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	- 年度
事業実施方法	直営、補助金												
補助率	1/3または1/2												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	1,934			(繰入) 1,934		自然保護基金(特財)							
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>													
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		-	3,268	2,347	1,934	1,934							
2月現計予算額の推移		-	1,436	1,482	1,404								
決算額の推移		-	356	252									
前年度までの 主な増減理由													
[成果指標等の推移]													
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	誘引樹木の伐採 (目標)	-	(100)	(60)	(60)	(60)	(60)	(60)	補助対象件数60件				
	実績	-	18	13	未確定								
活動指標	ツキノワグマ対策指導者の派遣 (目標)	-	(10)	(10)	(10)	(5)	(5)	(5)	指導者の派遣回数5回				
	実績	-	3	-	未確定								
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価					
・成果指標、活動指標とも目標を達成できなかった。 (外部要因) 令和4年度は令和3年度に引き続きクマの大量出没が少なかったため、誘引樹木の伐採や指導者の派遣の要望が少なかった。				誘引樹木の伐採を進めてもらうため、補助金の制度を拡充する。(伐採対象にヤブを追加、条件不利地の場合の補助率1/2と上限100千円を追加)				<input checked="" type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

# コウノトリ飼育事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県・市町				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H22 年度 経過年数 15 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営、委託、補助金											
補助率	1/3											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等			[ 環境基本計画 ]				
[解決すべき問題・課題] 飼育している「ふっくん・さっちゃん」の実の子(オス)は、兄弟(メス)が産卵するまで放鳥できない。また、野外コウノトリが将来にわたり安定的に繁殖するためには、餌となる動物の生息場所の状況などの確認が必要であり、それまでは飼育の継続が必要。						[問題・課題を表す客観的データ] 「野外コウノトリの繁殖が今後とも安定的に上手くいく確証がなく、餌資源調査等を実施しながら当面飼育を継続すべき」(専門家意見)						
[事業目的] 本県の自然環境の保全・再生のシンボルとして、コウノトリの野外定着を推進することを目的に、越前市白山地区でコウノトリの飼育を継続するとともに、放鳥コウノトリ等の位置情報の収集、および地域が取り組むコウノトリの生息環境整備を支援する。												
[事業内容] (1) コウノトリ飼育 兵庫県立コウノトリの郷公園から借受けたつがいのコウノトリについて、越前市白山地区において飼育を継続する。外部委託による専任飼育員による継続的な飼育を行い、効果的に飼育を行う。  (2) 放鳥個体の追跡の実施 平成27年から平成30年に放鳥したコウノトリに装着したGPS発信機を用いて、飛来位置を追跡する。  (3) コウノトリ定着推進会議の開催 コウノトリ定着推進会議を開催し、コウノトリの野外定着に向けた対策検討や放鳥後の生態調査を報告・検証する。  (4) コウノトリ定着推進支援 県内でコウノトリが定着できるよう、地域が取り組むコウノトリの生息環境づくりを支援する。(市町対象の補助金) 補助率1/3 事業期間3年以内(令和5年度~令和7年度の間)												
[受益者] 県民						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	野外コウノトリが定着・繁殖できるよう、越前市においては、ビオトープ整備など餌場環境の整備と地域住民への普及啓発に努め、県が主体で行っている飼育・繁殖事業については、越前市の職員を配置することにより、市と協同して事業を推進している。					他県の状況						

## コウノトリ飼育事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之				
事業主体	県・市町				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務		事業 区分	■ 実行予算 ■ 補助金 □ その他		事業 開始 年度	H22 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度	
事業実施方法	直営、委託、補助金											経過年数			15 年
補助率	1/3														
区分	事業費		国庫	起債	その他	一般財源		国庫、その他財源の名称等							
予算額	10,979				(繰入) 10,979			自然保護基金(振一)							
[予算額の推移等]												(単位：千円)			
区 分			2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由							
当初予算額の推移			12,307	12,109	10,981	10,967	10,979	・旅費単価およびGPS発信機使用料単価の増							
2月現計予算額の推移			11,634	11,351	10,837	10,323									
決算額の推移			9,641	9,773	9,939										
前年度までの 主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (H27) 県職員が行ってきた飼育を外部委託による飼育に変更 産卵期以降の見守り体制を強化するため、警備員を配置</li> <li>・ (H29~H30) 水鳥が飛来する地域を対象として、ビオトープを整備</li> <li>・ (R4) GPS等の削減</li> <li>・ (R5) 飼育費用の精査、補助金の追加</li> </ul>													
[成果指標等の推移]															
区 分			2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	県内で生まれたヒナの野外 放出数	(目標) 実績	(2) 4	(2) 7	(2) 12	(2) 13				県内で生まれたヒナが野外へ飛び立つ数 (H27~H30は飼育ペアから生まれたヒナを野外放鳥、R01からは野外ペアから生まれたヒナが巣立ち)					
活動指標	ビオトープ等設置個所数	(目標) 実績	(2) 2	(2) 3	(2) 4	(2) 3				巣塔またはビオトープの設置数					
[事業の評価]															
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価							
・ヒナの野外放出数について、令和5年度において越前市、小浜市、鯖江市で4ペアのコウノトリから計13羽のヒナが巣立ったことから成果指標を達成できた。 ・また、巣塔を1か所、ビオトープを2か所設置したことから活動指標は達成した。								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額				
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了					
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他					

## 三方五湖・北潟湖自然再生事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	三方五湖自然再生協議会、北潟湖自然再生協議会				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	<input type="checkbox"/> 実行予算	事業 開始 年度	H31 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	負担金							<input type="checkbox"/> 補助金				
補助率	1/4							<input type="checkbox"/> 法定受託事務				
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 環境基本計画 ]					
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]						
協議会への参加者の高齢化と固定化、協議会事業における産業(なりわい)に結び付いた自然再生の推進						フナ・コイ等の水産資源の漁獲量は減少(平成25年に約18t→令和2年は約2.3t)しており、美浜・若狭町で三方五湖で捕れた魚介類を提供する飲食店数は11店舗ほどである。三方五湖におけるエコツアー(有料)のほか、地域資源を活かした商品や取組みを進め、拡大していくことが地域活性化に求められる。三方五湖協議会の主メンバーである漁協組合員の数も高齢化で減少(H25:105人→R2:91人)。北潟湖でも地域のすぐれた自然等を内外にアピールできるエコツアーはほとんど実施されていない状況。						
[事業目的]												
三方五湖では「三方五湖自然再生協議会(平成23年5月設立)」、北潟湖では「北潟湖自然再生協議会(平成30年11月設立)」において、地元市町と地域住民、農漁業者、研究者および県、市町が協働して地域に即した自然再生を行い生物多様性の保全を行うとともに、保全活動の成果や地域の自然の魅力を全国にアピールしていく。												
[事業内容]												
<p>○あわら市、農漁業者、地域住民、大学研究者が共働して北潟湖の自然の保全、再生、活用を行う</p> <p>①負担金対象者 北潟湖の自然再生に関する協議会</p> <p>②負担金額 1,000千円(事業総額 4,000千円(国1/2、県1/4、あわら市1/4))</p> <p>③活動内容 北潟湖自然再生協議会の開催、北潟湖自然再生実施計画の作成 水質改善、外来種駆除と希少な水棲昆虫の保全、小学生を対象とした環境学習の推進等</p> <p>○三方五湖自然再生事業実施計画に基づき三方五湖の自然の保全、再生、活用を行う</p> <p>①負担金対象者 三方五湖自然再生協議会</p> <p>②負担金額 2,000千円(事業総額 8,000千円(国1/2、県1/4、若狭町1/8、美浜町1/8))</p> <p>③活動内容 三方五湖自然再生協議会全体会の開催 自然護岸再生、外来種対策、濁水防止のための普及啓発、水田養魚による地元産のフナ・コイの増殖、子どもラムサール(環境教育)の推進等 三方五湖の持続可能な地域づくり事業(エコツーリズム、地域資源の利活用等)</p>												
[受益者] 三方五湖周辺の住民、北潟湖周辺の住民						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 三方五湖・北潟湖生物生息環境再生事業(実績) <small>[三方五湖]・法定協議会「自然再生協議会」の設立(H23.5) ・自然再生フォーラムや観察会等の開催、カヤ田の保全、ヒシ刈り等の実施(H25~H27) ・ヒシの管理指針の作成(H27)・水田養魚のマニュアルの作成(H27) [北潟湖]・北潟湖の自然再生に関する協議会」の設立(H25) ・水田魚道の設置、魚類の育成効果を検証、地域の子供対象の魚観察会(H25~H27)、フォーラム・エクスカージョンの開催(H27)</small>				関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名(役割分担)				
市町との連携状況		三方五湖自然再生協議会では、若狭町と美浜町が県とともに事務局を担い、負担金を拠出している。北潟湖の自然再生に関する協議会では、あわら市が事務局を担い、県とともに負担金を拠出している。				他県の状況						

## 三方五湖・北潟湖自然再生事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	三方五湖自然再生協議会、北潟湖自然再生協議会				事務区分	■ 自治事務		事業区分	<input type="checkbox"/> 実行予算	事業開始年度	H31 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)
事業実施方法	負担金					□ 法定受託事務			<input type="checkbox"/> 補助金		経過年数	
補助率	1/4								<input checked="" type="checkbox"/> その他		6 年	
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	3,000			(繰入) 3,000		自然保護基金(振一)						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		3,000	3,000	3,000	3,000	3,000						
2月現計予算額の推移		3,000	3,000	3,000	3,000							
決算額の推移		3,000	3,000	3,000								
前年度までの主な増減理由												
[成果指標等の推移]												
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	協議会の開催	(目標) (3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	三方五湖自然再生協議会全体会の開催(1回/年) 北潟湖自然再生協議会全体会(2回/年)			
		実績 2	4	3	3							
活動指標	自然再生活動数(部会開催数)	(目標) (27)	(27)	(27)	(27)	(27)	(27)	(27)	三方五湖 18回(各6部会×3回/年)開催 北潟湖 9回(各3部会×3回/年)開催			
		実績 26	25	24	25							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価				
・協議会開催は3回実施したことから成果指標は達成できた。 ・自然再生活動数は25回実施したことから概ね活動目標は達成した。 <事業による要因> 年間の部会活動内容が例年と同一である部会において、活動状況共有のための部会を省略し、開催数を縮減したことによる。				活動状況共有の場を定期的に設けること、対面形式が難しい場合はオンラインや書面にて行うことなど、部会開催に関する適切なアドバイスを行う。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 三方湖のヒシ対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之								
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務	事業区分	■ 実行予算	事業開始年度	H30 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R9 年度							
事業実施方法	委託																		
補助率	—																		
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 環境基本計画 ]												
[解決すべき問題・課題] 三方五湖の最上流部に位置する三方湖において、近年、湖面をほぼ埋め尽くすほどにヒシの分布が拡大している。三方湖のヒシ発生に伴い、漁業のための航路阻害や湖辺に堆積するヒシの枯死体から発せられる悪臭などの社会的問題、ヒシの群落内における水中の貧酸素化による生態系の悪影響、湖景観への悪化を解消することが必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] 三方湖におけるヒシの専有割合 2017年 73.4%、2018年 40.2%、2019年 42.8%、2020年 0.1%、 2021年 42.2%、2022年 48.0%、2023年 0% ※抜取り作業実施後													
[事業目的]  三方湖のヒシの低密度管理につなげるため、強度のヒシ抜取りを実施する。																			
[事業内容] ①ワイヤー抜取り ・実施時期：5～7月 ・ヒシの葉が湖面を覆う前に発芽区域全体を抜取り、刈取る。 ・漁船に装着したワイヤーを引きながら、水深1～2mで葉が水面に出てくる前の若いヒシの茎を抜き取る。  ②ヒシの回収 ・抜取りや刈取りしたヒシのうち、漂流し漁業等に支障をもたらすヒシは回収し、陸揚げして処分する。																			
[受益者] 三方五湖周辺の住民						[想定される受益者数]													
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 三方五湖・北潟湖自然再生事業 (役割分担) ヒシの適正管理を行う手法開発として、平成25年から平成27年において、ヒシ刈取り専用船によるヒシ刈り実施試験の成果として「ヒシ対策ガイドライン」を作成。平成28年度からは、ワイヤー刈りによる低コストで効果的な管理手法の実証研究を実施。												
市町との連携状況	若狭町に事業費の一部を負担してもらい、連携して実施					他県の状況	<input type="checkbox"/> 長野県 諏訪湖に係る第6期水質保全計画(平成24年度から平成28年度) 「水草刈取船による諏訪湖のヒシ除去工事の実施(H25～長野県諏訪建設事務所)」 <input type="checkbox"/> 千葉県 印旛沼に係る湖沼水質保全計画(第7期 平成28年～32年) 「印旛沼におけるオニビシの刈取り実施」												



## 三方湖のヒシ対策事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H30 年度 経過年数 7 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度
事業実施方法	委託											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	9,149	5,489		(負) 1,830	1,830	電源交付金、若狭町						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移	12,400	12,109	10,916	9,859	9,149	・作業日数の見直しによる減						
2月現計予算額の推移	10,766	11,351	10,679	9,859								
決算額の推移	10,192	10,921	10,679									
前年度までの 主な増減理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (H30-R1) 機械による刈取りを行わないことに伴い予算額が縮小</li> <li>・ (R5) 作業日数の見直しによる減</li> </ul>											
[成果指標等の推移]												
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	ヒシ繁茂面積 (ha)	(目標) (34) 実績 0.4	(34) 150	(34) 170	(34) 0	(34)	(34)	三方湖ヒシ対策ガイドライン（三方五湖自然再生協議会外来生物等対策部会）のゾーニング計画に沿ってH18年～28年までのヒシの最小繁茂面積（34ha）程度にする。 ※三方湖湖面の10%程度に相当				
活動指標	ヒシ刈取り面積 (ha)	(目標) (240) 実績 109	(240) 76	(240) 63	(240) 103	(128)	(128)	128haのヒシを毎年の刈取りの目安とする。（生活環境被害、漁業被害に関わるエリアの面積に相当） ※R6年度以降				
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価				
・令和5年度はヒシが例年より少なかったことも受け、刈取り作業を通じ、成果指標を達成した。一方で、活動指標については達成できなかった。 <外的要因> 令和4年度などは、ヒシが広範囲に繁茂したことで1haあたりの回収量が増加し、刈取り面積を増やすことができなかったことによるが、令和5年度はヒシが例年より少なかったため、目標面積までの作業を要しなかったことによるもの。 ・活動指標は達成できなかったものの、ヒシ繁茂状況に関しては望ましい結果であった。一方、繁茂状況はその年の湖の塩分濃度などにも影響されるため、継続したモニタリングが必要である。				令和5年度はヒシの繁茂量が例年より少なかったが、ヒシの繁茂状況は塩分濃度などにも影響され、令和6年度においても同様の傾向となるかは分からない。そのため令和6年度においても、ヒシの刈取りに向けて体制を維持し、引き続き、生態系被害の防止のため県主体で実施する。令和5年度のようにヒシの繁茂状況が少ないときの刈取りなどを通じ、湖の埋土種子を減らしていくことで、生活環境への影響、漁業被害、景観への影響など採取し優先度の高い場所から、順次ヒシが生えないエリアを拡大させていく。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	710	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 「残そう・伝えよう！」生きもの保全事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之								
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	□ 実行予算	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 10 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度							
事業実施方法	補助金																		
補助率	10/10																		
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 環境基本計画 ]												
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]													
自然再生団体の活動がなくなること、絶滅の恐れが高まる種が増え、子どもたちが地域の生きものや自然環境について学ぶ機会が減る。						大野市のクロシジミ(チョウ、県域絶滅危惧Ⅰ類)や、美浜町のヒラサナエ(トンボ、県域絶滅危惧Ⅰ類)は、県内唯一の生息地において活動していた自然再生団体の活動が無くなり、絶滅の危機に瀕している。													
[事業目的]																			
地域と小学校が協働し、地域の身近な自然環境の保全・再生を行うため、子どもたちが地域の自然再生団体とともに継続的に身近な生きものの調査・保全活動を行う。絶滅の恐れのある生物の保全と、若い世代の教育を目指す。																			
[事業内容]																			
(1) 調査対象および内容 地域の宝となる希少な生物(県絶滅危惧種)を含む生き物の調査と保全について、地元の自然再生団体の協力を得なければ継続的に実施することが困難な活動を対象																			
(2) 支援内容 ○補助対象 自然再生団体 10団体 ○補助内容 ・身近な生き物調査と保全活動および小学校での観察会の開催経費 ・生きもの観察調査資機材への助成 ・生き物の生息環境整備に必要な資機材																			
[受益者] 県内小学校児童						[想定される受益者数] 年間350人													
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 身近な生きもの生息環境調査事業 (実績) 県内7ブロックごとに、身近な生きもの調査をするモデル校を指定し、トンボ、メダカ、積雪量の共通調査と学校独自の学校別調査を実施。 県内8小学校(302人)が参加。					関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)											
市町との連携状況	・市町教育委員会との連絡					他県の状況													

## 「残そう・伝えよう！」生きもの保全事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	<input type="checkbox"/> 実行予算	事業開始年度	H27 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R9 年度
事業実施方法	補助金					□ 法定受託事務			<input checked="" type="checkbox"/> 補助金		経過年数		
補助率	10/10								<input type="checkbox"/> その他		10 年		
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	2,000			(繰入) 2,000		環境保全基金							
[予算額の推移等]												(単位：千円)	
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000							
2月現計予算額の推移		2,000	2,000	2,000	1,600								
決算額の推移		649	1,668	1,534									
前年度までの 主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (H28) 実施校の拡大 (14から21校) による増</li> <li>・ (H29) 調査票作成に係る委託料の減</li> <li>・ (H30) 講師の派遣費用を別事業と統合したことによる減</li> </ul>											
[成果指標等の推移]													
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	参加児童数	(目標)	(350)	(350)	(350)	(350)	(350)	(350)					
		実績	240	365	390	未確定							
活動指標	支援団体数	(目標)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	(10)	補助対象件数：10者				
		実績	5	9	8	8							
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価					
活動指標は達成できなかった。 (外的要因) コロナの影響で、自然再生団体、学校ともに、活動が十分にできない期間が続いたため、以前に比べて外部団体とともに活動する機会がまだ少ない状態と考えられる。				目標が達成できなかったのは、コロナ禍での活動制限が後を引いていることが原因と考えられる。令和5年度内に徐々に制限が緩和されたため、今後は外部団体との活動機会も増えると考えられる。もし感染症対策に悩む自然再生団体があれば、他団体の事例を踏まえ、適切なアドバイスを行う。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

## 実学研究の推進

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課		課長名	片山 博之						
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R10 年度						
事業実施方法	直営																	
補助率	—																	
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画 ]											
[解決すべき問題・課題]  里山里海湖の資源を守るためには、専門的な学問や科学の支えが重要であり、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける様々な研究が必要である。						[問題・課題を表す客観的データ]  里山里海湖の恵みを暮らしに結びつける研究者数 4人												
[事業目的]  年縞や豊かな自然環境など、本県が誇るべき里山里海湖による恵みの価値を再認識し、生物多様性の確保と福井の豊かな暮らしの承継につなげるため、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。																		
[事業内容] 4名の研究者が、以下の分野において、里山里海湖の恵みを人々の暮らしに結びつける工夫を研究する。  <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;"> <p>【環境考古】 . . . 年縞を基に、自然、歴史をひも解き、自然と人の暮らしとの関わりを明らかにする研究を推進</p> <p>【保全生態】 . . . 里山、里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究</p> <p>【森里川海連環】 . . . 里海湖の原風景と利活用の歴史を明らかにし、保全・再生活動に結び付けるための研究</p> <p>【里地里山文化】 . . . 里に伝わる伝統(農法、漁法等)、文化、習俗等の資料を収集、活用して、県民の生活や里山里海湖の資源を生かした経済活動につなげる研究</p> </div> </div>																		
[受益者]						[想定される受益者数]												
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 実学研究推進事業 (実績) これまでの研究成果についての県民および各地域への発表会の実施および、地域における協議会等への参加などを通じて、研究成果の地域への還元に取り組んでいる。 30年度より、研究員が開発した効率的なヒシ刈り手法により三方湖でヒシ刈りを実施。					関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担) -										
市町との連携状況	研究の実施において、市町関係施設等との連携を図っている。					他県の状況		県レベルでの里山里海湖に関する研究を行う組織は他県にはない。										

# 実学研究の推進

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務		事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R10 年度
事業実施方法	直営												
補助率	—												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	6,602	150		(繰入) 6,452		科学研究費補助金、自然保護基金(振一)							
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>													
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		8,000	8,000	6,615	6,615	6,602							
2月現計予算額の推移		6,603	6,080	4,293	6,008								
決算額の推移		5,777	5,381	3,568									
前年度までの 主な増減理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (R2) 研究費総額を8,000千円とする</li> <li>・ (R4) 必要経費の見直しによる減</li> </ul>												
[成果指標等の推移]													
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	(目標) 実績								5年間の研究期間の途中年度毎に研究成果を数値化することは困難				
活動指標	研究テーマ数 実績	(4) 4	(4) 4	(4) 3	(4) 4	(4)	(4)						
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価					
研究成果に基づく自然再生事業実施件数 4件 ・ 伝統知を活かしたなぎさの再生事業 1件(若狭町事業1件) ・ コイ・フナ育成田事業 1件(6年間の結果を分析し指針作成) ・ 浅水代かき農法の検討 1件(報告書取り纏め) ・ 北潟湖周辺の水田における濁水流出調査 1件(対策方法を提言)				今後も成果が出るように引き続き事業を継続していく。 維持費を縮減する。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	13		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

## 里山文化体験講座

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H26 年度 経過年数 11 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度
事業実施方法	直営、委託											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等	[ 環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画 ]						
[解決すべき問題・課題]  地域のお年寄りの知識や技術を活かしながら、里山里海湖の魅力や大切さを幅広い世代に伝える ことが必要である。						[問題・課題を表す客観的データ]  長期ビジョンアンケート 問20「将来の福井県で今より悪くなると心配すること」 ・人口減少と多くの集落がなくなること(1位)、高齢者の生活不安(3位)、地域コミュニ ティーが希薄(4位)など、里山地域に特徴的な事項について衰退することが心配。						
[事業目的]  里山里海湖研究所の来所者に対し、地域のお年寄り(ふるさと研究員)や里山里海湖相談員を講師に、里山里海湖の伝統的な人の営みを題材とした気軽な体験メ ニューや周辺の自然環境を活かした体験メニューを提供し、里山里海湖の魅力幅広い世代に伝える。												
[事業内容] (1) 里山里海湖研究所自然観察棟において、来所者が気軽に体験できるメニューを提供 ○体験メニュー 松ぼっくりアート、どんぐりアートなどの工作 野鳥観察、研究内容の紹介 等 ○指導者 里山里海湖相談員  (2) 時節に応じた自然体験企画を開催 自然観察棟周辺の自然環境を活かした植樹や生き物観察など、来所者が縄文ロマンパーク一帯で里山文化を体感できる企画を実施する。 ○開催日 年4回(四半期に1回) ○場 所 里山里海湖研究所自然観察棟および縄文ロマンパーク周辺												
[受益者] 県民						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)					
市町との連携状況	自然体験企画のうち1回は若狭町(縄文博物館)と連携して開催している					他県の状況						

## 里山文化体験講座

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之		
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務		■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 区分	事業 開始 年度	H26 年度 経過年数 11 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度
事業実施方法	直営、委託					□ 法定受託事務							
補助率	—												
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	476			(繰入) 476		環境保全基金							
[予算額の推移等]												(単位：千円)	
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		476	476	476	476	476							
2月現計予算額の推移		476	476	326	326								
決算額の推移		444	464	223									
前年度までの 主な増減理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (H30) 年2回の特別企画を開催するため増額</li> <li>・ (R1) シルバー人材センター委託業務を削減</li> <li>・ (R2) 開催回数の減</li> </ul>												
[成果指標等の推移]													
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	来所者数 (目標)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(15,000)	(20,000)	(30,000)	展示・体験メニューの充実を図り、来所者数の増加を目指す				
	実績	11,118	7,689	16,314	未確定								
活動指標	時節に応じた企画イベント数 (目標)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	四半期に1回				
	実績	5	5	4	4								
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価					
活動指標の目標は達成した。 成果指標である来所者数も、R6.2月末時点で19,657人であり、目標は達成した。								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

## 福井ふるさと学びの森 がんばる里山里海湖応援プロジェクト

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之
事業主体	県				事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度 R1 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度) R9 年度	R9 年度
事業実施方法	直営										
補助率	—										
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等	[ 環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画 ]					
[解決すべき問題・課題]  里山や里海湖を使った気軽な自然体験の中で環境教育を推進するため、民間団体等が主体となって質の高い体験サービスを提供できるようにする必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ]  学びの森・海湖登録団体35団体(公共的団体7団体を除く)のうち、 ・活動を生業としている団体数 11団体/35団体 ・生業ではないが精力的に活動している団体数 12団体/35団体					
[事業目的]  福井ふるさと学びの森・海湖における体験活動をととして、人の暮らしと里山・里海湖との関わりや森と海湖のつながりを学ぶ機会を提供し、県民の里山里海湖保全の意識醸成につなげる。											
[事業内容]  福井ふるさと学びの森・海湖ネットワーク事業 福井ふるさと学びの森・海湖登録団体の活動内容のレベルアップを図り、県内外での集客力を高めることで、森と海湖のつながりを学べる環境づくりを推進する。 ①県内外への情報発信：ア 県外向け広報 イ 県内向け広報 ②安全性の向上のための合同研修会兼情報交換会を開催：学びの森・海湖団体で合同開催(1回)  福井ふるさと学びの森・海湖活性化プロジェクト 登録団体の活動を活性化させるため、体験会を開催											
[受益者] 県民						[想定される受益者数]					
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 「福井ふるさと学びの森」事業、NW事業(実績) (1) 県直営の学びの森3か所(若狭町、あわら市、奥越)を運営(奥越は自然保護センターと共催)し、一般県民を対象とした年間体験プログラムを実施 (2) 学びの森登録団体への支援					関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)			
市町との連携状況						他県の状況					



## 福井ふるさと学びの森 がんばる里山里海湖応援プロジェクト

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之				
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R9 年度			
事業実施方法	直営														
補助率	—														
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等									
予算額	3,258			(繰入) 3,258		環境保全基金									
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>															
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由								
当初予算額の推移		4,147	3,850	2,236	2,282	3,258	・活性化プロジェクトの団体増加								
2月現計予算額の推移		3,352	3,390	979	1,498										
決算額の推移		3,116	3,111	923											
前年度までの 主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (R1) 先進的、挑戦的な活動を行う団体への補助支援を追加 (県内広報誌への広告費を追加)</li> <li>・ (R2) 資機材貸出に係る事業を別事業として計上 (※30年度は前事業の額を記載)</li> <li>・ (R3) あわらエリアの直営を廃止、登録団体の支援を強化</li> <li>・ (R4) 若狭エリアの直営を廃止</li> <li>・ (R5) 活性化プロジェクトの追加</li> </ul>													
[成果指標等の推移]															
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠						
成果指標	学びの森・海湖活性化プロジェクト参加者数 (延べ数) (目標) 実績				(5) 5	(15)	(15)	(40)	5年度は1団体5人、6年度～8年度は2団体10人、9年度は1団体5人 (延べ40人)						
活動指標	ネットワーク事業開催回数 (目標) 実績	(1) 0	(1) 1	(1) 1	(1) 1	(1)	(1)	(5)	森、海湖合同で1回						
[事業の評価]															
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価							
成果指標、活動指標とも目標を達成した。 ・ネットワーク事業を県民にPRするため、ショッピングセンターで行った。 ・活性化プロジェクトを1団体にて開催。団体・学生から前向きな意見が出された。				森・海湖登録団体の活動の活性化・次世代の育成を目的とした活性化プロジェクトについて、団体数を増加して実施する。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額				
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了					
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他					

## 里山保全活動用資機材貸出事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R2 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 環境基本計画、里山里海湖研究所中期計画 ]					
[解決すべき問題・課題] 里山の利活用が減り、「里山の奥山化」が進行し、獣害発生の一因となっているため、少人数、高齢者でも取り扱いの可能な里山整備資機材の利用普及により、適正な里山管理の支援が必要である。						[問題・課題を表す客観的データ] ウッドチップパー、薪割機、炭化炉 延べ機材貸出し回数(利用者数) H31 64回(39団体・個人) R2 70回貸出し(47団体・個人) R3 73回(47団体・個人) R4 58回貸出し(39団体・個人)						
[事業目的] 人の手が入らなくなり荒廃が進む里山の保全・再生および資源利用の推進のため、県内の里山の保全・再生活動に取り組んでいる方を対象に、里山保全活動用資機材の貸出しを行っている。ニーズの高い資機材のうち、耐用年数を向かえた一部を更新し、里山保全活動者の利便性を向上させ、県内の里山の保全・再生を促進する。												
[事業内容] (1) 県内3地区で貸出業務を実施 ○貸出拠点 3ヶ所(福井地区、丹南地区、嶺南地区)で貸出 ・福井地区、丹南地区は委託により実施、嶺南地区は直営で実施 ○貸出資機材(現状) 福井地区 ウッドチップパー2台、薪割機2台、炭化炉4台 丹南地区 " 1台、" 1台 嶺南地区 " 1台、" 1台、炭化炉2台												
[受益者] 県民						[想定される受益者数]						
前事業の有無・実績 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 森と海湖のつながり体感事業(実績) 資機材貸出件数(H30) ウッドチップパー(4台) 47回 薪割り機(4台) 25回						関連事業の有無・役割分担 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名(役割分担)						
市町との連携状況						他県の状況						

## 里山保全活動用資機材貸出事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R2 年度 経過年数 5 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	1,550			(繰入) 1,550		環境保護基金						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		1,366	2,888	1,446	1,504	1,550	・点検料の値上がり等					
2月現計予算額の推移		1,366	2,300	1,446	1,504							
決算額の推移		1,366	2,300	1,434								
前年度までの 主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (R1) 以前は、「森と海湖のつながり体感事業」のうちの貸出に係る予算を計上</li> <li>・ (R2) 丹南地区の貸出拠点を追加</li> <li>・ (R3) 貸出し資機材を1台更新</li> <li>・ (R5) 点検料の値上がり等</li> </ul>										
[成果指標等の推移]												
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	貸出回数 (目標)	(60)	(60)	(60)	(60)	(60)	(80)	(100)	ウッドチップパー、薪割り機、炭化炉の貸出が毎月5回			
	実績	70	73	58	未確定							
活動指標	貸出し拠点数 (目標)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	嶺北、嶺南各1か所 令和2年度以降は嶺北2か所、嶺南1か所			
	実績	3	3	3	3							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動指標は目標を達成した。</li> <li>・ 成果指標である貸出回数はR6.2月末時点で65回であり、目標を達成した。</li> </ul>								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 生態系保全のための特定外来生物防除事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課		課長名	片山 博之							
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	■ 実行予算	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R8 年度							
事業実施方法	委託																		
補助率	—																		
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 環境基本計画 ]												
[解決すべき問題・課題] 生態系や人の身体等へ被害を与える、またはそのおそれがある特定外来生物が、県内の広い地域で侵入・分布拡大。希少種が生息する地域でも特定外来生物の侵入・個体数増加が見られ、希少種およびその場所の生態系に重大な影響が及んでいる。						[問題・課題を表す客観的データ] 17市町全てに、特定外来生物に指定される生物が侵入(環境省 令和5年度「特定外来生物の市町村別侵入状況の把握のためのアンケート」調査) (例) 爬虫類…アカミミガメ: 10/17市町 両生類…ウシガエル: 6/17市町 魚類…オオクチバス: 15/17市町 甲殻類…アメリカザリガニ: 15/17市町 植物…オオキンケイギク: 17/17市町													
[事業目的] 特定外来生物の侵入・個体数増加によって希少種の生息環境に重大な影響が及んでいる場所について、特定外来生物の防除を行い、生態系の保全につなげる。																			
[事業内容] 特定外来生物の防除の実施 (1) 防除実施場所: 坂井市内 対象となる特定外来生物: アメリカザリガニ 実施内容: 閉鎖水系において、捕獲装置と水抜きを組み合わせた捕獲・防除を行う  (2) 防除実施場所: 越前町内 対象となる特定外来生物: アメリカザリガニ 実施内容: 閉鎖水系において、水抜きを行うことでアメリカザリガニの捕獲・防除を行う																			
[受益者] 県民						[想定される受益者数]													
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 「残そう・伝えよう！」生きもの保全事業 (役割分担) 本事業では、地域の自然再生団体と小学校が協働して行う、地域の身近な自然環境・生きものの調査・保全活動を支援し、希少種の保全・再生とともに若い世代が地元の貴重な自然を実践的に学ぶ機会の提供につなげる。											
市町との連携状況	県、市町それぞれにおいて、地域・場所の実情を踏まえた役割分担・取組みを必要に応じて行っている。県においては希少な動植物が生息・生育している地域において、管理者や自然再生団体等と連携・協力して希少種を守るための防除を実施。市町においても、河川敷・道・池など身近な場所で、地域住民や関係団体などとともに駆除・防除等を実施。本事業での防除活動の実施にあたっては、対象地の市町と連携を行う予定。					他県の状況		<input type="checkbox"/> 愛知県 ・県内でこれまでに確認されている特定外来生物について、基本情報や防除方法等をまとめたハンドブックを作成 <input type="checkbox"/> 岐阜県 ・緊急的な防除の必要のある外来生物を定め、市町村とともに防除 ・そのほか市町村が行う外来生物駆除活動に対して補助(補助率1/2)											

## 生態系保全のための特定外来生物防除事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之			
事業主体	県				事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業開始年度	R6 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R8 年度
事業実施方法	委託			経過年数								1 年		
補助率	—													
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等								
予算額	1,500	1,500				生物多様性保全推進交付金								
[予算額の推移等]												(単位：千円)		
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由							
当初予算額の推移		-	-	-	-	1,500								
2月現計予算額の推移		-	-	-	-									
決算額の推移		-	-	-	-									
前年度までの 主な増減理由														
[成果指標等の推移]														
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠					
成果指標	事業実施地域で確認される希少種数(種/年) (目標) 実績	-	-	-	-	(2)	(2)	(2)	防除実施地域1か所につき、希少種1種の保全を目指す					
活動指標	特定外来生物の防除・低密度化に取り組んだ地域(箇所/年) (目標) 実績	-	-	-	-	(2)	(2)	(2)						
[事業の評価]														
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価						
								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額			
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了				
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他				

# 「山の日」全国大会開催事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課		課長名	片山 博之		
事業主体	県、「山の日」全国大会実行委員会				事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務  <input type="checkbox"/> 法定受託事務		事業 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他		事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R7 年度
事業実施方法	直営、負担金													
補助率	-													
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 環境基本計画 ]							
[解決すべき問題・課題]						[問題・課題を表す客観的データ]								
山の恵みに感謝するとともに、美しく豊かな自然を守り、次の世代に引き継いでいく必要がある。						日本は国土の7割近くを山地が占める山の国であり、環境に応じて複雑かつ多様な生態系を形成しているほか、地球環境保全機能や保健・レクリエーション機能などを有している。								
[事業目的]														
「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という国民の祝日「山の日」の趣旨の浸透を図るとともに、山に関する歴史や文化の継承、環境保全、観光振興や健康増進など様々な課題の解決や「山の未来」のあり方について考える機会とするため、第9回「山の日」全国大会を開催する。														
[事業内容]														
(1) 実行委員会設立準備等  (2) 「山の日」全国大会実行委員会への負担金 ① 実行委員会／運営委員会の開催、実施計画の作成等 ・年度毎の事業計画等の検討承認、大会テーマの決定など手続きの実施 ・実施計画の作成 歓迎レセプション、記念式典、歓迎フェスティバルに関する計画の作成 ② 山の日に慣れ親しむイベントの開催 <気軽に登山体験> 場 所：文殊山、足羽山(想定) 参 加 者：①小中学生の親子、②小学生(クラスの単位) 5回程度 ③ 広報活動 山岳の環境保全に関する県民の理解を広めるため、「山の日」に関連したイベントをホームページで情報発信するほか、ポスターおよびリーフレット等による広報活動を実施する。 ・HP作成、運営、ロゴ作成、広報グッズ作成 ④ 「山の日」全国大会事務局運営費														
[受益者] 県民						[想定される受益者数]								
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (役割分担)						
市町との連携状況	県内市町と連携して実施					他県の状況		令和5年度は沖縄県において全国大会を開催。令和6年度は東京都において開催予定						

## 「山の日」全国大会開催事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之					
事業主体	県、「山の日」全国大会実行委員会				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R6 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R7 年度		
事業実施方法	直営、負担金					□ 法定受託事務			□ 補助金						■ その他	
補助率	-															
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等										
予算額	7,793			(繰入) 7,793		自然保護基金(特財)										
[予算額の推移等]												(単位：千円)				
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由									
当初予算額の推移		-	-	-	-	7,793										
2月現計予算額の推移		-	-	-	-											
決算額の推移		-	-	-	-											
前年度までの 主な増減理由																
[成果指標等の推移]																
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠							
成果指標	第9回「山の日」全国大会の参加者(関連イベント含む)【延べ数】	-	-	-	-	(500)	-	(5,000)	他県の実績を参考に最終目標を設定							
	(目標) 実績															
活動指標	第9回「山の日」全国大会の開催	-	-	-	-	-	-	(1)	全国大会を開催し、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」という「山の日」の趣旨の浸透を図る							
	(目標) 実績															
[事業の評価]																
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価								
								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額					
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了						
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他						

# 年縞博物館特別展開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課		課長名	片山 博之
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R1 年度	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営			経過年数								
補助率	—			6 年								
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等			[ 環境基本計画 ]				
[解決すべき問題・課題] 新型コロナウイルス感染拡大の影響から来館者数が減少しており、来館者数の回復・増加を図る必要がある						[問題・課題を表す客観的データ] 年縞博物館の来館者数 来館者数：令和元年度55,232人、令和2年度42,568人、令和3年度38,736人、令和4年度41,767人						
[事業目的] 水月湖年縞および平成30年9月にオープンした年縞博物館の認知度を高め、また、年縞研究の重要性について理解を深めてもらうため、特別展を開催し、年縞博物館への誘客を図る。												
[事業内容] 概要：約4万年前、地磁気極(N極S極)の移動が短期間の間に頻繁に起こっていたことが水月湖年縞の研究で明らかになった。その研究成果を紹介するとともに、地磁気極の移動に伴って起こったであろうオーロラ現象や、ネアンデルタール人の絶滅説などを紹介するとともに、現在、オーロラ現象が多数観測される極地での観測装置など展示する。 テーマ：「ネアンデルタール人とナウマンゾウの見た夜空」(仮) 時期：令和6年9月4日(水)～11月4日(月)6日間(仮) 展示構成：①地球の磁場は宇宙からの放射線から生物を守っていること、その磁場と宇宙からの放射線によりオーロラという現象が起こることを紹介(極地での観測装置、装備、オーロラ画像、など) ②約4万年前の地磁気極の移動と4万年前という時代について紹介(水月湖年縞の地磁気極の研究試料、ネアンデルタール人復元模型、ナウマンゾウの実物大復元画像、石器、など) ③地磁気極、地球磁場の変動、太陽活動を詳細に記録し、詳細な復元を可能にする年縞を展示(イタリア ピアニコ層、フィンランド レヘミランピ湖の年縞はぎとり) 隣接の若狭三方縄文博物館では現在の主な地磁気やオーロラの観測地である極地での調査や生活に関する特別展を同時開催 記念シンポジウム：特別展開催中に実施 (R5年度は年縞博物館魅力向上事業で要求) ○題目 「地磁気極の移動とオーロラ」(仮) ○講師 片岡龍峰(極地研)、兵頭政幸(神戸大学) ○司会 中川毅(立命館大学古気候学センター) ○日時 令和6年10月19日(土)(予定) ○場所 リブラ若狭 講堂 ○人数 150人												
[受益者] 来館者						[想定される受益者数] 10,000人						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 年縞博物館開館記念事業 (実績) 平成30年9月に年縞博物館が開館するに当たり、世界の年縞の研究・教育の拠点として、年縞の魅力を県内外に発信するため、特別企画展を開催					関連事業の有無・役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 資料収集事業 (役割分担) 収集した資料等を特別展等で公開				
市町との連携状況	若狭三方縄文博物館との合同特別展の開催					他県の状況						



## 年縞博物館特別展開催事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	3,725	1,862			1,863	デジタル田園都市国家構想交付金						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和5年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		3,855	3,983	3,746	2,379	3,725	・休止していたシンポジウムを再開					
2月現計予算額の推移		1,655	3,649	2,936	2,379							
決算額の推移		1,619	3,649	2,827								
前年度までの主な増減理由		・(R5) 5周年記念によりシンポジウムを魅力向上事業で実施のため、シンポジウムを休止										
[成果指標等の推移]												
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	特別展開催期間中の来館者数 (目標)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)	(10,000)				
	実績	16,472	12,310	7,810	9,157							
活動指標	特別展開催件数 (目標)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)				
	実績	1	1	1	1							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価				
特別展を開催し、活動指標は達成した。 成果指標は達成できていない(達成率91.5%)が、昨年比では17%の改善ができた。 〈外部要因〉5月に新型コロナウイルスが5類に引き下げれ、来館者は令和元年度に次ぐ人数にはなっているが、目標までは届かなかった。				目標値を上回った、2年度・3年度当時のような、広告宣伝の実施を行い、目標達成する。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了		
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

# 年縞博物館魅力向上事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之								
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R6 年度							
事業実施方法	直営																		
補助率	—																		
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 環境基本計画 ]												
[解決すべき問題・課題]  年代測定の世界標準になっている水月湖年縞を展示し、教科書にも掲載されている博物館の魅力を発信する必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 全国約5700の博物館等の中から唯一、第2回博物館協会賞を受賞するなど、高い評価を得ており、来館者数を伸ばす余地が大きい。 来館者数：令和元年度55,232人、令和2年度42,568人、令和3年度38,736人、令和4年度41,767人													
[事業目的] 年縞研究・教育・観光の拠点である年縞博物館において、研究を推進し研究成果を普及啓発することで、年縞博物館の魅力を高め、北陸新幹線福井・敦賀開業を見据えた来館者の増加を図る。																			
[事業内容]  (1) 年縞研究の推進 ア 水月湖年縞の研究のために来県する海外研究者とともに研究を促進し、海外研究者による博物館ガイドツアーを実施  (2) 年縞教育・普及の推進 ア サイエンスカフェ等の開催 年縞研究の見識を深める「サイエンスカフェ」等を開催し、年縞の魅力の理解普及・発信を促進 イ 琵琶湖博物館と連携した展示・講座(30千円) ①両博物館で互いの所蔵品を展示・紹介 ②学芸員を相互に派遣して講座等を開催 ※令和2年度開催の福井県・滋賀県知事懇談会の合意事項																			
[受益者] 来館者						[想定される受益者数] 60,000人													
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 年縞博物館特別展開催事業 (役割分担)  特別展開催による来館促進、水月湖年縞の魅力普及											
市町との連携状況						他県の状況													

## 年縞博物館魅力向上事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	R1 年度 経過年数 6 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等						
予算額	1,095	547			548	デジタル田園都市国家構想交付金						
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>												
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由					
当初予算額の推移		1,267	1,406	4,734	4,606	1,095	・5周年記念で開催していたシンポジウムを、特別展事業で実施					
2月現計予算額の推移		1,267	950	4,212	4,606							
決算額の推移		1,072	624	3,616								
前年度までの 主な増減理由		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ (R1) 年縞博物館ガイドブック（図録）および周辺施設と共同でPR動画を制作したため、令和2年度の事業費が減少した</li> <li>・ (R2) 上記終了による減、琵琶湖博物館と連携した展示・講座の実施による増</li> <li>・ (R3) 観光関連企業等への営業ツール制作による増</li> <li>・ (R4) 水月湖年縞の教材作成、「The Best in Heritage」への参加による増</li> <li>・ (R5) 5周年記念により、特別展事業で開催していたシンポジウムを拡充して実施</li> </ul>										
[成果指標等の推移]												
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠			
成果指標	来館者数 (目標)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	(60,000)	年縞博物館の来館者数			
	実績	42,568	38,736	41,767	未確定							
活動指標	研究会、サイエンスカフェの開催 (目標)	(6)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	海外ガイドツアー（R5まで国際年縞研究会議）（1回）、サイエンスカフェ（5回→2回）、琵琶湖博物館連携事業（1回）			
	実績	6	2	4	4							
[事業の評価]												
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国際年縞研究会議（1回）、サイエンスカフェ（2回）、琵琶湖博物館連携事業（1回）を実施したことから、活動指標の目標は達成した。</li> <li>・ 来館者数はR6.2月末時点で40,279人であり、成果指標の目標は達成できなかった。</li> <li>〈外部要因〉R5.5月に新型コロナウイルスが5類に引き下げれ、来館者数は増加傾向であるが、目標までは届かなかった。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外研究者によるガイドツアーや、サイエンスカフェの内容を工夫するなどして来館者の増加を図る。</li> <li>・ シンポジウムを特別展事業で実施するため縮減。</li> </ul>				<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額	
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了	3,511	
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他		

## 年縞博物館 首都圏等からの誘客促進事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	R6 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 環境基本計画 ]					
[解決すべき問題・課題]  教科書に掲載されている水月湖年縞の知名度を高め、教育旅行の拡大を図る必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ]  県外から年縞博物館への教育旅行実績 R3年度 870人 R4年度 1,348人						
[事業目的]  北陸新幹線福井・敦賀開業を機に、年代測定の世界標準であり、中学校理科や社会の教科書に掲載されている「水月湖年縞」の価値を広く普及し、教育旅行など、年縞博物館への来館者数拡大を図る。												
[事業内容]  (1) 首都圏等からの誘客促進 ア 旅行担当教員等の理解促進 首都圏等の中学校・高等学校の教育旅行担当教員等に、年縞博物館および近隣の施設、体験活動などを紹介 (年縞博物館では過去の気候変動や断層活動による地形形成など、若狭湾では業漁体験や海ごみ問題など、SDGs教育プログラムを提供) イ 誘客助成 県外から年縞博物館を訪問する教育旅行を催行する旅行会社に対する助成を行い、来館を促進 (生徒・教員等一人につき400円助成) 福井県観光連盟とともに、首都圏等の旅行会社を通して働きかけ (2) 首都圏等への情報発信 ア 年縞博物館Web広告 年縞博物館のショート動画(60秒)を作成し、YouTubeのweb広告等で発信 ※首都圏(東京、埼玉、栃木、群馬、茨城、千葉、山梨)対象に、地理番組等を閲覧する層を中心に広告配信(150万視聴) 「年縞」を知っている全国の理科や社会教員等に対する年縞博物館の動画発信 イ SNSキャンペーン ※ミュージアム、建築、展示デザイン、地層等に関心がある層にアピール												
[受益者] 来館者						[想定される受益者数] 60,000人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・ 役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 年縞博物館魅力向上事業 (役割分担)  年縞研究の促進、ガイドツアーや講座等の開催				
市町との連携状況						他県の状況						

## 年縞博物館 首都圏等からの誘客促進事業

区分	新規	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之		
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度		
事業実施方法	直営					□ 法定受託事務			□ 補助金			R6 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)
補助率	-					□ その他							
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等							
予算額	4,574	2,287			2,287	デジタル田園都市国家構想交付金							
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>													
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由						
当初予算額の推移		-	-	-	-	4,574							
2月現計予算額の推移		-	-	-	-								
決算額の推移		-	-	-	-								
前年度までの 主な増減理由													
[成果指標等の推移]													
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠				
成果指標	県外からの教育旅行者数 (目標)	-	-	-	-	(2,000)	(2,000)	(3,000)	県外からの教育旅行者数				
	実績	-	870	1,348	未確定								
活動指標	Web広告配信 (目標)	-	-	-	-	(1,500,000)	(1,500,000)		Web配信による露出拡大による知名度向上				
	実績	-	-	-	-								
[事業の評価]													
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価					
								<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額		
								<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了			
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他			

## 海浜自然センター特別企画事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之	
事業主体	県				事務 区分	■ 自治事務  □ 法定受託事務	事業 区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業 開始 年度	H27 年度 経過年数 10 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度
事業実施方法	直営											
補助率	—											
福井県長期ビジョン における位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 環境基本計画 ]					
[解決すべき問題・課題] 夏季においては特に、関西、中京方面からの来館者が増加傾向である。これらの利用者が年間を通して利用してもらえるような特別企画を開催し、福井の海湖に親しみ、環境保全や海産資源消費拡大をめざす。						[問題・課題を表す客観的データ] 夏季の県外来館者率 R1 66.9% R2 57.2% (コロナの影響により減少) R3 64.0% R4 61.4%						
[事業目的] センターの活用や来館を促進するため、主催事業や出張講座、個人受入講座の内容を紹介するとともに、福井の海湖(うみ)に親しみ、環境保全意識の高揚や海産資源の消費拡大に向けた特別企画を開催する。												
[事業内容] ① 25周年記念 海の日特別企画イベント 7月14日(日)・7月15日(月・祝) 25周年特別企画イベントとして、海の自然・生きものとのふれあいを中心に、館内外、海岸や海上でさまざまな海の自然を体感してもらう。 ・磯の世界を水槽とオブジェで再現し、海中散歩の気分を作り上げる。 ・館の前の海岸や岩場で海の生きもの採取、観察会を行う。 ・海の生きもの実験教室・海岸環境アート展を行う。 等  ② 考えよう!福井の海湖(うみ) イベント 10月5日(土)・10月6日(日) ・若狭湾の貝殻、海藻、ビーチグラス等を使ったクラフト工作を行い、環境保全意識を高める活動を行う。 ・野外での体験を通して、多様な福井の海の生きものを知ってもらう。 ・魚調理などの体験を通して、若狭の海の幸の豊かさを体験するとともに、魚介類の消費拡大につなげる。 ・海湖の環境保全や資源活用等で研究されている方を講師に招き、講演会やクイズ大会を開催して環境保全意識を高める活動を行う。 等												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 6,000人						
前事業の有無・実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名 (実績)					関連事業の有無・役割分担		<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 自然体験講座開催事業 (役割分担)  当センターの自然体験講座開催事業について紹介したり、参加の予約を受け付けたりするなど、講座参加率向上を図る。				
市町との連携状況	・県立大学、水産試験場、各地区教育委員会・小学校、各地区観光協会等との連携 ・若狭町ツーデーマーチ、若狭町ハート&アートフェスタへの参加協力 ・海岸清掃時のゴミ処理については、ボランティア活動として処理費用を免除(若狭町)					他県の状況						

## 海浜自然センター特別企画事業

区分	継続	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之				
事業主体	県				事務区分	■ 自治事務 □ 法定受託事務	事業区分	■ 実行予算 □ 補助金 □ その他	事業開始年度	H27 年度 経過年数 10 年	事業終了 予定年度 (見直し年 度)	R6 年度			
事業実施方法	直営														
補助率	—														
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等									
予算額	2,487			(繰入) 2,487		自然保護基金(特財)									
[予算額の推移等] (単位:千円)															
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由								
当初予算額の推移		2,437	2,172	2,172	1,953	2,487	・25周年記念イベントによる増額								
2月現計予算額の推移		1,000	2,172	2,172	1,953										
決算額の推移		996	2,172	2,075											
前年度までの 主な増減理由															
[成果指標等の推移]															
区 分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠						
成果指標	来館者数 (目標)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	(110,000)	GW明けに1回目のイベントを開催し、環境保全の啓発をする。夏休みの前に2回目のイベントを開催し、観察活動に最適な時期の参加者増を狙い、環境保全意識の高揚を図る。						
	実績	104,614	93,669	129,184	未確定										
活動指標	イベント来館者数 (目標)	(5,000)	(5,000)	(5,000)	(5,000)	(6,000)	(5,000)	(5,000)	学ぼう!福井の海湖(うみ)(5,000人)、考えよう!福井の海湖(うみ)(5,000人)※R6年度については、25周年記念のため6,000人						
	実績	4,221	7,270	8,092	7,028										
[事業の評価]															
前年度の実績・成果指標等の定量的評価				実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価							
活動指標は目標を達成した。 成果指標である来館者数は、R6.2月末時点で106,904人であり、3月で目標を達成する見込みである。(R5.3月の実績:9,773人)				25周年を記念して海の日イベントを開催し、更なる集客を図る。				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額				
								<input checked="" type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input type="checkbox"/> 完了					
								<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他					

## 「星空の街・あおぞらの街」全国大会開催事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課		課長名	片山 博之
事業主体	県、市町				事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	R5 年度	事業終了予定年度 (見直し年度)	R5 年度
事業実施方法	直営			経過年数						1 年		
補助率	—											
福井県長期ビジョンにおける位置付け	分野 [ 4 安心を高める(地域力) ] 政策 [ 15 ふるさとの暮らしと風景の維持 ]				関連する県の計画等		[ 環境基本計画 ]					
[解決すべき問題・課題] 六呂師高原の星空ブランドを高め、星空保護区及び地域活性化に県として寄与するため、大野市が実施する「星空の街・あおぞらの街」全国大会の開催に対応する必要がある。						[問題・課題を表す客観的データ] 星空等に配慮した行動・意識を高めることへの課題 ・大野市六呂師地区(住民や地域訪問者への理解促進) ・坂井市丸岡町(丸岡スポーツランド夜間照明)※22.10.15付日刊県民						
[事業目的] 大野市が主体となって令和5年10月に同市内で開催される「星空の街・あおぞらの街」全国大会における、ご来賓の対応を行う。												
[事業内容] 令和5年度「星空の街・あおぞらの街」全国大会 (1) 期日 令和5年10月8日(日)～9日(月・祝) (2) 概要 (8日) 式典等：大野市内 星空観望会：六呂師高原(福井県自然保護センターなど) 夕食会：大野市内 (9日) 御視察：大野市内 (3) 業務内容 ご来賓の視察対応、夕食会の開催等												
[受益者] 県民						[想定される受益者数] 30,000人						
前事業の有無・実績	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 事業名 星空に配慮した六呂師県有施設屋外照明改修事業(実績) 星空へ配慮した照明に改修(自然保護センター、六呂師ウォーキングセンター、奥越高原青少年自然の家、キャンプ場、ミルク工房)					関連事業の有無・役割分担		<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 事業名(役割分担)				
市町との連携状況	本大会は、大野市が誘致を行い、主体となって開催する大会であり、大会の運営全体は市において行われる。県としては、皇族のお成りに関することについて、調整、実施するものである。					他県の状況		開催状況(過去3か年) R4 東京都三鷹市 R3 岡山県井原市 (R2 コロナの感染拡大のため中止(鹿児島県与論町)) R1 北海道弟子屈町				



## 「星空の街・あおぞらの街」全国大会開催事業

区分	終了	経費区分	政策的経費	要求基準	内	部局名	エネルギー環境部	課名	自然環境課	課長名	片山 博之					
事業主体	県、市町				事務区分	■ 自治事務		事業区分	■ 実行予算		事業開始年度	R5 年度 経過年数 1 年	事業終了 予定年度 (見直し年度)	R5 年度		
事業実施方法	直営					□ 法定受託事務			□ 補助金						□ その他	
補助率	-															
区分	事業費	国庫	起債	その他	一般財源	国庫、その他財源の名称等										
予算額																
[予算額の推移等] <span style="float: right;">(単位：千円)</span>																
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	令和6年度予算額の増減理由									
当初予算額の推移		-	-	-	4,697											
2月現計予算額の推移		-	-	-	4,697											
決算額の推移		-	-	-												
前年度までの 主な増減理由																
[成果指標等の推移]																
区分		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	中間目標	最終目標	目標・指標の考え方・積算根拠							
成果指標	大会参加者数 (目標)	-	-	-	(500)				過年度の参加実績を参考 (参考) R3大会(岡山県井原市) 400名 R元大会(北海道弟子屈町) 300名							
	実績	-	-	-	300											
活動指標	県内ご視察 (目標)	-	-	-	(3)				福井県自然保護センター、大野市内(または勝山市内)の視察箇所2か所程度							
	実績	-	-	-	4											
[事業の評価]																
前年度の実績・成果指標等の定量的評価					実績を踏まえた令和6年度の変更点				事業評価							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動指標は達成した。</li> <li>・成果指標は達成できなかった。 (外部要因)警備の観点から、一般参加者は事前申込があった人に限定したため。</li> </ul>									<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 終期の見直し	見直し額				
									<input type="checkbox"/> 継続	<input type="checkbox"/> 休止	<input checked="" type="checkbox"/> 完了		4,697			
									<input type="checkbox"/> 整理統合	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> その他					